

センター委員会議事録

(平成30年度 第1回)

平成30年8月8日

大正地区センター

開催日、場所

開催日 : 平成30年7月21日(土) 15:30～16:30

場所 : 大正地区センター 第1会議室

出席者名(敬称略)

- ・センター委員 : 10名
- ・戸塚区役所地域振興課 : 安藤様
- ・とつか区民活動支援協会 : 事務局
- ・大正地区センター : 館長、副館長(2名)

資料	センター利用状況	・・・資料1
	予算遂行状況	・・・資料2
	事業運営について	・・・資料3
	自主事業計画	・・・資料4
	イベント計画	・・・資料5
	センターまつりについて	・・・資料6

委員長挨拶

お暑い中お集まりいただきありがとうございます。今年は、6月に梅雨明けをし、各地で災害が起き、この後も地元の防災会議を控えております。地区センターがより活発になるよう皆様のアイデアをお伺いできたらと思います。初めての方も3名いらっしゃるので簡単に挨拶をお願いします。

- ・参加者全員名前と所属、一言を述べる。

事務局挨拶

日頃からお世話になりありがとうございます。大正地区センターは新たに指定管理をいただいてから3年になります。これからも皆様にご利用しやすい環境を作っていきたいと思っておりますので、皆様ご協力をお願い致します。

議事

1. センター利用状況 (資料-1)

1-1. 利用者数推移

大正地域の人口は約4万人。ここ数年この数値はほとんど変化がありません。大正地区センターの利用者は昨年度、初めて10万人を超え104,053人でした。地域の方が一人平均2.6回利用されたこととなります。これは横浜市の地区センター平均利用状況とほぼ一致します。年齢分布では、ここ数年の傾向として中学生以下の子どもの割合が増えています。これは、小中学校の先生が気軽に色々相談にのってくださるお陰だと思っております。これからも小中学校と連携していきたいのでよろしく申し上げます。

1-2. 部屋稼働率推移

平成30年度6月までの平均稼働率は49.7%です。ここ数年50%台で推移していたことに比べ、若干低い数値となっています。その原因を探るべく分析したものが3ページ下にあるグラフです。1サークル平均月2回弱利用されています。利用団体数の減少もしくは、1サークルあたりの利用回数の減少が原因と考えられます。

平成29年度と比較した場合、部屋別では体育室を除く他の部屋については、ほぼ同率もしくは減少しています。時間別で見てもいずれの時間帯も減少しており、対策を講じる必要があると思っております。昨年度、音楽室または和室を利用していたにもかかわらず、今

年度は1回も利用していないサークルが複数存在することから、これも稼働率減少の原因と考えられます。

2. 予算遂行状況 (資料-2)

2-1. 収支予算

平成30年度の予算は、経常収益（経常費用）は、37,622,000円です。

利用料金収入は実態に合わせて、昨年度より126,000円少なく設定しました。電気料金については、今年度からすべてを特定規模電気事業者へ切替ましたので、その効果を織り込んだ予算となっています。その他業務委託費は、今年度、インターネットによる予約申込システムを開発しますが、その費用を計上しています。新たに発生する費用がありますので、その分消耗品費、備品購入費、修繕費を抑制した予算となっています。

2-2. 修繕費実績・計画

修繕費予算（658,000円）に対し、6ページの表のとおりすでに512,348円の支出が確定しております。消防設備、排煙窓修理、トイレ扉修理などをすでに実施しました。

センターの予算ではないのですが、樹齢80~100年の桜の伐根を行いました。根が腐っていて倒れてもおかしくないので切りました。（区の予算処置）

2-3. ニーズ対応費実績・計画

ニーズ対応費は、利用料金収入（4,200,000円）の1/3で1,400,000円の予算を組んでいます。現状では、1,095,549円がほぼ確定しています。残りの部分は、皆様のご要望を聞きながら使っていきます。

修繕費としては、和室畳替えを行いました。今回は、強度を優先して化学繊維の畳にしました。それ以外は確定しておりません。備品購入費としては、卓球台を購入しましたが、それ以外は確定しておりません。状況をみながら対応していきます。

3. 事業運営について (資料-3)

居心地の良い地域の居場所を目指して事業運営を行っています。自分たちでは、できない部分は、地域の施設・団体と連携しながらすすめています。地域ケアプラザさんや他の

施設・団体と連携して例えば、地域食堂の実現性について検討しています。今後、課題を一つずつクリアーにして実現させたいと思います。

事業概要の詳細は、資料 3-1 を参照してください。事業分野ごとに昨年度の実績と今年度の計画を記載しています。

昨年度の実績で良かったものは継続して、さらに新しい事業を追加しています。

3-1. 運用ルールの変更

体育室運用のルール変更については、本日の利用者会議（体育系のサークル）の了承をえられました。体育室の個人利用時間帯に子ども、家族枠を設けて優先的に貸出すルールに変更します。

3-4. ボランティア活動について

平成 29 年度の実績を紹介しました。

明治学院大学とのコラボで、2つのイベントを実施しました。テーマが小学生には難しすぎたという点は反省しています。今年度の具体的計画ができましたら、校長先生にお持ちしますので相談に乗っていただければと思います。

地域ケアプラザさんとは、大正小学校の特別支援学級の親子さんと一緒に体を動かそうという取り組みを行っています。大正地区センターでは、和室や大きな会議室を提供してそこで運動してもらっています。

サークルの皆さんにも放課後、こどもたちに色々なことを教えていただいています。(昨年度は、フラダンス、将棋、競技けん玉)

夏休み勉強教室では、ボランティアの方に見守りという形で支援していただいています。ただ、ボランティアがなかなか集まらないということが大きな課題です。

一方で、今年は、大正中学校から2名、小学生に勉強を教えてみたいという嬉しい申し出がありました。他に、口コミでボランティアを確保しながら、この事業を継続しています。

小学校の書初め大会に向けて、書道の先生にボランティアで書道の手ほどきをお願いしています。近隣の保育園から園長先生や栄養士の方のご支援をいただき、保育付きの食育講

座なども実施しています。体育関係では、卓球同好会、バドミントン同好会さんに講座の講師になっていただくなど、事業運営にご支援いただいています。

4. 大正地区センターまつり

今年は、大正地区センター祭りは12月1日、2日を予定しています。昨年同様、大正中学校には、吹奏楽演奏をお願いしています。イベント中心の祭りへの移行という課題がありますが、一気に変更することは難しいですが、本日の利用者会議の中で、イベント中心への移行を考えていることはサークルに伝えました。徐々にイベント中心への切り替えを検討していきます。

5. 自主事業計画

平成30年度の自主事業（講座）は、47講座（新規：17）、延べ256回の講座を開催する計画です。

ご意見・質問等

（委員）：予算の公租公課とは何ですか。

（館長）：消費税のことです。

（委員）：地域食堂の取組みは良いと思います。ふらっとステーションで、このような事業に取り組んだがうまくいかなかった。必ずしも裕福ではない家庭も増えているし、近隣では働いている母親が多く、こどもの居場所がないということもあります。このような場所に皆が集まって、宿題を教えあうなどして自然に輪ができて、ただ食べるだけではない場所になったらいいなと思います。

さきほど大正中学校の生徒が勉強を教えるという取組みが紹介されたが、素晴らしいことだと思います。そのようなことが広まれば、勉強だけでなく遊びでも教えあうことができる。上の子が下の子に教えるのはとてもよいことだと思います。

（館長）：地区センターをうまく使っていただければと思っています。自分だけでやろうとしてもできないので町内会にも力を貸してほしい。

(委員) : 夏休みには、子どもたちの居場所がない。どこへいったらいいのかという感じがする。

(委員) : 大正小学校が地区センターに一番近いので、利用している子は一番多いと思う。2年生が地区センターの施設見学会でもお世話になりました。

地区センターから、夏休みの勉強教室の見守りを先生にお願いできないかという申し出がありました。昨年度は急だったので来年は対応できると言いました。しかし、今年度は、働き方改革という波が押し寄せてくる中で、8月3日から2週間程度、閉庁期間を設定しています。教員は、日頃から朝から夜遅くまで働いていますので、閉庁期間はリフレッシュしてもらいたいと思っており、心苦しいのですが、今回はお断りしました。

(委員) : 先生たちにそのような気持ちでいて欲しいというのは、それは校長先生のお考えで、正しいと思います。思いやることが校長先生なので、正しいと思います。

(委員) : 地域のイベントに参加する場合、単に動員ということではなく、そこに参加して、学校のファンを増やしてきてほしいと言っています。イベントに行けば、地域の方とふれあうことで、顔が見える関係ができ、いつか助けてもらえる、と思っています。

地区センターまつりでは、毎年、作品展示で協力させていただいています。良い場なので協力させてもらいたいと思っています。

(委員) : 勉強教室のボランティアは、薬科大にも働きかけてみましたが、試験などで時間がとれず参加してもらえませんでした。アフタースクールで教え方の上手な方がいたので、声を掛けてみます。

(館長) : 皆さんに色々と働きかけていただき、その中でつながりが広がってきたので、いつか良い関係で協力していただけるとと思っています。

(委員) : 中学校は十数年前に土曜日が休みになって、今回は、中学の部活動をやりすぎているので、休養日を取らせなさいと通達がありました。平日、練習の無い日を1日と土日いずれか一日を休みにする。さらに練習をする日は、3時間以内にするというものです。子供たちが行うものがあまりにも多すぎて子供が疲れているから休ませましょう、という通達です。大正中も徐々に休みをとるようになってきたので、体育室の利用で子供たちが優先という形にして頂いたのは良いことだと思います。子供を学校に残しておいて部活をなしにはできないので、こどもを学校の外に出さざるを得ない日が、今まで以上に増えることを知って頂きたいと思っています。逆に言うと、暇な時間ができますので、ボランティア

で勉強を教えることもできることになります。本当に教えることができるか心配しています。一方で、一緒に勉強しようということは、小学校の縦割り集団生活の中で6年間育てていただいた力がありますから、中学生になって小学生と一緒に勉強する機会が増えてくるのは嬉しいと思っています。

ケアプラザさんからも夏休みにボランティアのチャンスを沢山いただいています。全部は対応できませんでしたが、ボランティアを募ると、多い日では3~4人がケアプラザに行く子がいます。このように地域で色々な機会を準備していただければ、学校でもボランティアを募ります。ただ、100%期待されても集まらない時もあります。今回も勉強教室には2名しか手を挙げた子はいませんが、一緒に勉強しようと思った子が増えていくことは良いかなと思っていますし、有難いことです。

(委員) 小学生を教えると言った中学生にはすべてを任せると、その子たちは優しい教え方をします。生徒が教えると本当に生徒の言うことを聞きます。友達感覚で教えるというのが本当に有効です。中学生が来てくれると、小学生も大喜びだと思います。

(委員) : 稼働率の話で、もともと利用が少ないので稼働率が低いということもあるし、一方で、申込が多い場合に抽選で漏れて利用できず代替の部屋を確保しないから稼働率が低くなるということもあると思います。このような状況を解消する方法はあるのでしょうか。

(館長) : 利用者会議で、抽選に外れていつも部屋が取れないのに、どうして稼働率がこんなに低いのか、という話がありました。自分の感覚と合わない、ということです。例えば水曜日の午後には、申込が集中しますので、かなりの確率で抽選に外れます。一方、金曜日では、そのような傾向がありません。どの曜日、時間帯が集中しているか、空いているかの情報(データ)を利用者に提供しています。空いている時間帯がありますので、サークル活動を少しずらしてくださいと、お願いしています。そうすると、部屋予約がしやすくなるし稼働率も上がります。

(委員) : 食堂とか勉強教室を部屋稼働率の低いところに設定するというのも均一化という観点では効果的だと思います。一方で、稼働率の高いところを確保してしまうと他のサークルが利用できなくなるのでバランスが重要になります。

また、センターでテーマを決めるのではなく、いつでも何でもできるという場所を提供できれば、だんだん人が増えてきたり、口コミで集まってきたりするのではないかと思います。

(館長) : 放課後の居場所という観点からすると、いつでも来られる場所があるということが理想だと思っています。その時、子どもだけでは心配なので、大人の見守りが必要だと思っています。そのしくみを上手く作って、さらに大正地区センターは稼働率が低いので、場所を確保することは比較的容易なので、このような取り組みは可能だと思います。青少年指導員さんには大いに期待しています。

(委員) : 子どもたちが、お化け屋敷やりたいが場所がないと言っています。

(館長) : ぜひ、地区センターを活用してください。

(委員) : 稼働率 50%は結構動いていると思います。工場の場合、80%の機械稼働率ってすごいと思います。町内会館で稼働率を確認したら 5%位でした。

(委員) : 毎年、4月に総会を行っているが、部屋を優先的に確保できると聞いたが、どうすればよいのか。

(館長) : 優先枠というのがあります。例えば、子育てだと料金が 50%に減免になるとか、色々決まり事があります。

(委員) : センター祭りで、たい焼きは好評で良いが、もう少し模擬店を増やしてほしい。また、休日急患診療所があったところは、どのように利用するか決まっているのでしょうか。管理されていないのもったいない。

(安藤様) : この場所は、地域振興課でなく、他部署で検討していると思います。状況を確認してみます。(後日、跡地の利用方法は未定との連絡を受けました。)

(委員) : センターとして何か立てれば、プラスになるものが発案できればと思います。

(委員) : 裏庭の陥没は全面的に支援してもらえないのでしょうか。

(安藤様) : 横浜市の中で直さなければならない工事のリストが 800 件くらいあり、優先度の高いものから着手しています。消防点検での指摘事項、昇降機などが優先されます。低額で対応できる部分は、区役所の権限で対応しています。また、大きなものでも、分割

して直すとか、やり方は色々ありますが、中庭部分は、地盤沈下もあり、相当な費用が掛かると思います。

（委員）：中庭は本当にもったいないと思います。子供、高齢者や住民がみんなで利用できるということに決まり、多少お金がかかるのであれば寄付を募るとかやりようはあるのではないのでしょうか。

（委員）：休日急患診療所の跡地について、センターそのものだけは無理だと思いますが、下を備蓄庫にして上を体育室のようなものを作るような案があればと思います。

また、稼働の平準化が稼働率向上には有効だと思います。

（事務局）：インターネットによる部屋予約システムでは、予約申込時点で予約状況が見えますので、どの程度の倍率かが分かります。倍率が高い場合、申込数が少ない他の枠に申込を変えることができます。また、他の地区センターも同時に申込みますので、このしぐみを上手く使えば、稼働の平準化が図れると考えています。

（福井委員長）：今日議論した事は、すぐに結論がでる話ではありませんが、今後に向けて良い考えがあれば次回、報告してください。

以上